

在籍校名 宮若市立宮若西小学校  
職・氏名 教諭 濱口 あや

## 研 修 報 告 書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

### 記

#### 1 研修種別

D 福岡県教育センター研修員

#### 2 主題研修について

研究主題 相手意識をもって書いて伝える児童を育てる第6学年外国語科学習指導

—やり取りを土台として書くことを段階的に位置付けた単元構成を通して—

##### (1) 研究のねらい

###### ア 課題の背景

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語活動・外国語編では、外国語科導入にあたって、小学校で音声中心に学んできたことが、中学校の段階で音声から文字の学習に円滑に接続されていないという課題が挙げられている。在籍校の6年生に行ったアンケートでは、英語で話すことは好きであるが、「書くことを難しいと感じる」と答えた児童は88.9%に上った。この結果から、やり取りを通して音声で慣れ親しんだものを、書くことにつなげることができていない児童が多くいることが分かった。このことから、音声から文字の学習へ円滑に接続されるよう小学校高学年における「書くこと」の指導改善を図る必要があると考え、本主題を設定した。

###### イ 研究の目的

第6学年外国語科学習指導において、相手意識をもって書いて伝える児童を育てるために、やり取りを土台として書くことを段階的に位置付けた単元構成の有効性を究明する。

###### ウ 研究の仮説

第6学年外国語科学習指導において、単元ゴールの言語活動を工夫し、やり取りを土台として書くことを段階的に位置付けた単元構成を行えば、相手意識をもって伝えたい表現に音声で慣れ親しみ、音声と文字をつないで、相手意識をもって書いて伝える児童が育つだろう。

##### (2) 研究の構想

###### ア 主題の説明

###### (ア) 主題について

「相手意識をもつ」とは、相手に伝えるという目的を明確にもち、その相手に応じて伝える内容を考えたり、相手に伝わりやすいように伝えたりすることである。「相手意識をもって書いて伝える」とは、相手の要望や好み、状況などに合わせて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を使い、自分が伝えたいことを書くことである。本研究においては、相手がある後も何度も見返せるものを書いて渡すようにする。その際、相手を読みやすいように語と語の区切りに注意して書くようにする。小学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語活動・外国語編における「書くこと」の目標においても、「語順を意識しながら、語と語の区切りに注意して、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにすること」と示されている。書いて伝える相手から反応

をもらい、伝わったという経験をすることで、児童は書くことの有用感を実感し、書くことへの抵抗感を軽減させることができると考える。そこで、本研究で目指す児童を以下の条件を満たす姿とする。

- 相手の要望や好み、状況に合わせて伝える内容を考えて書く児童
- 相手が読みやすいように、語順を意識しながら、語と語の区切りに注意して書く児童
- 書くことの良さを実感して書くことを活用できる場面を考える児童

(イ) 副題について(図1)

「やり取り」とは、目的や場面、状況を把握し、相手意識をもって自分の考えや気持ちを伝え合うことである。「やり取りを土台とする」とは、相手に書いて伝えるためのやり取りを繰り返しながら、音声で十分に慣れ親しんだ状態にして書く活動につなげることである。中森(2018)は、「文字導入は、音が安定してから文字列に見慣れる、十分に慣れながら書き写す、といった順序性を守り、穏やかに進めていく。」<sup>1)</sup>と述べている。文字の導入は、音声を定着させ、順序性を守りながら行う必要があると捉える。「やり取りを土台として書くことを段階的に位置付けた単元構成」とは、表1のような文字導入の順序性に沿って活動を位置付けた単元構成のことである。まず、書いて伝える相手からの話を聞く。次に、書いて伝える内容についてやり取りをする。そして、音声で慣れ親しんだ語句や表現のカードを並べて文をつくる。これらのやり取りと文をつくる活動を複数回繰り返す。さらに、つくりためた文を見ながら語句や表現を書く。最後に、書いたものを渡して相手からの反応を聞く。また、単元を通して毎時間ゴールを確認し、書いて伝える相手を意識する。このような単元構成を行うことで、相手意識をもって書いて伝える児童が育つと考える。

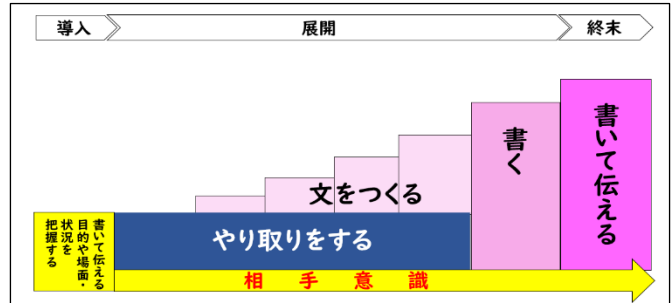


図1 やり取りを土台として書くことを段階的に位置付けた単元構成

表1 書いて伝える段階と児童の状態

活動	児童の状態
書いて伝える相手からの話を聞く	・単元ゴールの言語活動における目的や場面・状況を把握し、相手意識をもっている
書いて伝える内容についてやり取りをする	・伝えたい英語表現に音声で十分に慣れ親しんでいる
音声で慣れ親しんだ語句や表現を並べて文をつくる	・伝えたい語句を見て意味がわかっている ・伝えたい語句のまとまりを認識している ・伝えたいことを表す文の語順を意識している
つくりためた文を見ながら語句や表現を書く	・相手が読みやすいように、語と語の区切りに注意している
書いたものを渡す	・書くことの有用感を実感し、これから書こうとしている

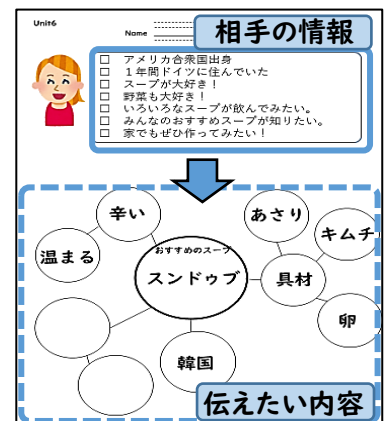
イ 研究の内容

(ア) 3つの視点をもった単元ゴールの設定

単元ゴールの言語活動を、①相手意識をもてるか、②書く必然性があるか、③自分の考えや気持ちか、の3つの視点に沿って設定する。単元ゴールの言語活動では、自分が本当に伝えたいことを音声で伝えた後に書いたものを渡す活動を設定する。そのために、単元導入では、伝える相手からメッセージをもらって、目的や場面、状況を明確にし、相手意識をもたせる。単元展開では、相手に伝えたいことをトピックごとに繰り返しやり取りし、語句や表現に音声で十分に慣れ親しませ、その表現を使って文を書く。単元終末には、伝える相手から「役に立った」「見返した」というメッセージをもらい、書くことの有用感を感じられるようにする。

(イ) 相手に応じた内容を書くための情報シートの活用

情報シートとは、相手の情報と、それに応じた自分の伝えたいことをイメージマップに具体的に書くシートである。相手の情報と自分の伝えたいことを資料1のように並べて示すことで相手意識をもって書く内容を考えることができる。児童は、情報シートに書いた内容を基にやり取りを行い、内容に付加・修正を加えながら伝えたいことを整理していく。



資料1 情報シートの例

(ウ) 音声と文字をつなぐ「文をつくる活動」の設定

やり取りを通して十分に慣れ親しんだ語句や表現を使い、タブレット上で文をつくる活動を行う。

児童のタブレットには、イラストと音声、色を付けた語句カードを送信しておく。児童は、これらをヒントに必要な語句カードを選んだり並べたりして、文をつくる。この時、音声を聞きながら文字を確認することで、やり取りで使った表現の音声と文字をつなぐことができる。語句を読んで並べ、文をつくることで、児童は語句のまとまりを認識したり、語順を意識したりすることができる。また、タブレット上で文をつくることで修正や順番の入れ替えも簡単にできる。やり取りと書くことの間、語句カードを並べて文をつくる活動を位置付けることで、書くことへの接続が円滑になる。

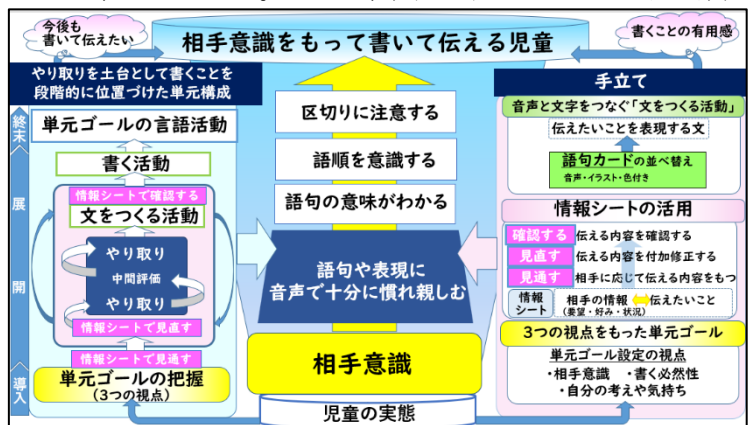


図2 研究構想図

(3) 研究の実際

ア 実証授業の学年及び単元計画 (全8時間+課外)

A 市立B 小学校第6 学年C 組29名

単元名「おすすめのスープを紹介しよう」(教科書単元名: Unit6 Let's think about our food.)

目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ おすすめのスープや、そのスープの発祥国、使われている具材、味や良さなどについて伝えるための基本的な表現を理解し、語順を意識しながら書いたり、四線上に正しく書いたりすることができる。【知識及び技能】</li> <li>○ 相手の要望や好み、状況に応じて、音声で十分に慣れ親しんだスープの発祥国や、具材、味や良さなどに関連する語句や基本的な表現を用いて自分の考えや気持ちを書き写すことができる。【思考力、判断力、表現力等】</li> <li>○ 相手の要望や好み、状況に応じて、音声で十分に慣れ親しんだスープの発祥国や、具材、味や良さなどに関連する語句や基本的な表現を用いて自分の考えや気持ちを書こうとしたり振り返ったりしながら自己調整することができる。【学びに向かう力、人間性等】</li> </ul>	
配時	目標◆ ・ 主な活動 (数字)	具体的な手立て□
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 単元ゴールをつかむ。</li> <li>1 ALT の話を聞き、要望や好みを情報シートに整理する。</li> <li>2 教師の発表を聞き、基本表現と出会う。</li> <li>3 単元ゴールの言語活動へ向けて単元計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 書いて伝えたいという思いを高めるために、児童に分かる表現を使い、写真やイラストを示しながら家でも見返したいという要望を ALT に伝えてもらう。</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 相手の情報に応じて伝える内容を整理する。</li> <li>1 伝えたいことをイメージマップに表す。</li> <li>2 相手の好みや状況を知るためのインタビューをする。</li> <li>3 自分の好きなスープを友達と伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 相手に伝えることを見通すために、イメージマップを使って伝えたいことを整理するようにする。</li> <li>□ ALT の好みを全体で共有できるようにインタビューの結果を表にまとめて掲示する。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ やり取りを通して、スープの発祥国、具材、味や良さを伝える表現を音声で身に付け、タブレット上に文をつくる。</li> <li>1 教師が、スープの発祥国、具材、味、良さについて話すのを聞いて意味を理解する。</li> <li>2 友達とのやり取りと全体での中間評価を繰り返す。</li> <li>3 タブレット上で語句カードを並べて文をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 伝えたいことの音声表現を身に付けるために、やり取りの前に、情報シートに書いたことを見直したり、文をつくった後で確認したりする。</li> <li>□ 語句カードを選択して並べる際のヒントになるように語句カードにはイラストや音声、色を付けておく。</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 相手が読みやすいスープ紹介カードを書く。</li> <li>1 スープ紹介カードに書く内容や順番をグループで確認する。</li> <li>2 書き写す上で気を付けることを確認する。</li> <li>3 おすすめのスープ紹介カードを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 相手が読みやすい文を書くことができるようにするために、黒板に例文を示して、相手に伝わりやすいように書こうという思いを高める。</li> </ul>
1 + 課 外	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ スープ紹介カードを渡し書くことの有用感を実感する。</li> <li>1 ALT にスープ紹介カードを手渡す。</li> <li>2 ALT からのメッセージを聞き、単元の振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ ALT からの反応を聞いて、書いて良かったという思いや今後も書いていきたいという思いをもたせる。</li> </ul>

イ 実証授業の実際と考察

(7) 導入 (第1時)

単元導入では、相手意識をもって書いて伝えたいという思いを高めることをねらいとした。そのために、①相手意識をもてるか、②書く必然性があるか、③自分の考えや気持ちか、という3つの視点をもった単元ゴールを設定した。「スープが大好きなので、みんなのおすすめのスープを教えて欲しい。みんなのおすすめのスープを家でも食べて、冬は温まりたいな。」というALTからのメッセージを聞き、情報シートにまとめた。その後、「ALTが家でも食べたいと言っていたの

ALT の話していることが分かって、「あちやおすすめのスープを食べてもらいたい!!」と思いました。家で食べてもらえるように、書くために必要なことを確認しながら書いてほしいです。

資料2 第1時の振り返りの記述(A児)

で、家でもスープ紹介を見ることができるよう書いて伝えた方が良くと思います。」という意見を基に、スープ紹介カードをつくることをゴールとした。A児は、資料2のように、ALTに書いて伝えたいという思いをもったことを記述した。これは、ALTからその場以外でも使いたいという要望を聞いたことで、ALTに書いて伝えたいという思いをもつことができたからであると考え。

以上のことから、3つの視点をもった単元ゴールを設定することは、相手意識をもって書いて伝えたいという思いを高める上で有効であったと考える。

#### (イ) 展開前段 (第2時)

第2時は、相手に応じて伝える内容を整理することをねらいとした。そのために、情報シートに、伝えたいことをイメージマップで表し、ALTの要望や好みに応じているかを確認するためのインタビュー活動を設定した。A児はインタビュー活動を通して、中に入れる具材を「にんじん」から「じゃがいも」に修正した(資料3)。振り返りシートには、「じゃがいもが好きだと分かったので、多分ポトフは喜んでくれると思います。」と書いていた。このことから、情報シートを基にしたインタビュー活動により、相手に応じて伝える内容を選ぶことができたと言える。

以上のことから、伝えたいことをイメージマップに表し、伝える内容が相手に応じているかを確認するインタビュー活動を設定することは、相手に応じて伝える内容を整理する上で有効であったと考える。

#### (ウ) 展開中段 (第3時～第6時)

第3時は発祥国、第4時は具材、第5時・第6時は味や良さを相手に応じて伝える文をつくることをねらいとした。そのために、情報シートに整理したことを基に、友達とやり取りを行った後で、タブレット上に語句カードを並べて文をつくる活動を設定した。

第6時は、情報シートの「スープの良さ」に関する記述内容を見通してやり取りを行った。A児は、「健康に良い」「栄養バランス」と記述した。しかし、1回目のやり取りでは教師のモデルをまね、資料4上段のように、“You can get warm.”と伝えた。これは、A児が情報シートに示した内容ではなく、本当に伝えたいことではなかった。中間評価①では、1回目のやり取りで使った表現を自己評価し、「健康に良い」「野菜まるごと食べられる」など、言い方の分からない表現を話し合い全体で共有した。2回目のやり取りでは、中間評価①で共有した表現を使い、資料4中段のように、“It’s healthy.”と表現を修正することができた。中間評価②では、2回目のやり取りで使った表現を自己評価し、“Do you like～?”と相手に問いかけて内容を詳しくし



資料3 A児が書いた情報シートイメージマップ

<p>※一部抜粋</p> <p>1 回目のやり取り</p>	<p>B: What is your recommended soup? A: どうしよう…まあいいか。 This is potofu. (情報シートを見直す) (何と言うのか分からない様子) <u>You can get warm.</u> B: うん。</p>
<p>中間評価①</p>	<p>言い方の分からない表現の共有</p> <p>C: 「健康に良い」の言い方がわかりません。 D: 何て言うんだろう… T: “healthy.”って聞いたことないかな。 A: ああ～“It’s healthy.だ!”</p>
<p>※一部抜粋</p> <p>2 回目のやり取り</p>	<p>A: What is your recommended soup? E: This is clam chowder. It’s hot and delicious. A: What is your recommended soup? E: This is potofu. <u>It’s healthy.</u> A: Oh! Potofu. Thank you.</p>
<p>中間評価②</p>	<p>内容を詳しくする表現の共有</p> <p>T: 詳しくする表現を使ってやり取りしていた人を紹介しますね。</p> <p>全体共有したやり取り ※一部抜粋</p> <p>T: What is your recommended soup? F: This is potofu. You can get warm. I like potofu. Do you like potofu? T: Yes, I like potofu. T: Fさんのやり取りはどこが詳しくあったかな。 G: “Do you like～?”を使っていました。 T: “I like～.”を使うとスープの良さがより伝わるね。</p>
<p>※一部抜粋</p> <p>3 回目のやり取り</p>	<p>F: What is your recommended soup? A: This is potofu. <u>It’s healthy.</u> F: It looks delicious. A: What is your recommended soup? F: This is potofu. You can get warm. Do you like potofu? A: Yes! <u>I like potofu.</u> F: Oh! I see.</p>

資料4 第6時のA児のやり取り

ていた児童のやり取りを見せ、“I like～.”を使うとスープの良さをより詳しく伝えられることを全体共有した。3回目のやり取りでは、資料4下段のように、F児に“Do you like potofu?”と聞かれ“I like potofu.”と答えていた。これらの姿から、やり取りと中間評価を繰り返すことで、音声で十分に慣れ親しんだり、自分の伝えたいことを次第に詳しく伝えることができるようになっていたりすることが分かる。

次に、タブレット上に文をつくる活動を行った。児童が語句の意味や語順を考えやすくしたり、音声と文字をつないだりするために、教師は語句カードにイラストと色、音声を付けておいた。これらをヒントにして、語句を選択したり並べたりする姿が多く見られた。A児は、必要な語句カードを選択して正しい語順に並べ“I like potofu.” “It’s healthy.”の2文をつくった



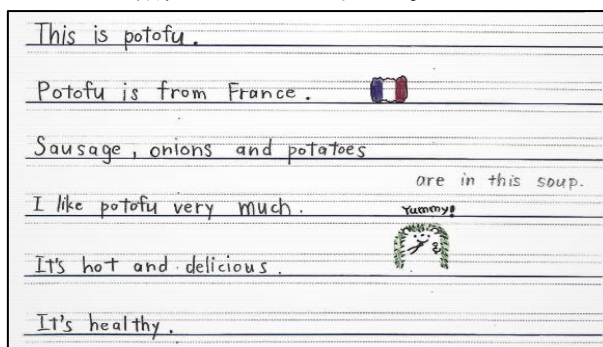
資料5 タブレット上に文をつくるA児

(資料5)。その後、情報シートの「栄養バランス」という記述の下に“OK”と書き込み、文をつくったことを確認した(資料3)。このような姿から、語句カードの音声やイラストを確認しながら語句カードを並べることで、音声や意味と文字とをつなぎ、伝えたいことを伝える文をつくることができたとと言える。

以上のことから、情報シートに整理したことを基に、やり取りを行った後で語句カードを並べて文をつくる活動を設定したことは、相手に応じた文をつくる上で有効であったと考える。

(イ) 展開後段 (第7時)

第7時は、ALTが読みやすいスープ紹介カードを書くことをねらいとした。そのために、語句間のスペースが不適切なモデルを提示し、ALTに「これでは読みにくい。」という感想を伝えてもらった。その上で、前時まで語句カードを並べてつくった文を見ながらスープ紹介カードに書き写す活動を設定した。A児は、時折タブレットの語句カードを拡大して、文字の位置を確認したり、適切なスペース



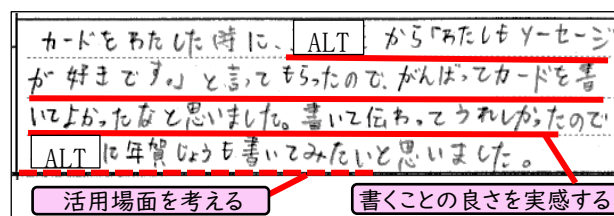
資料6 A児が書いたスープ紹介カード

を空けるために語句と語句の間に指を置いたりしながら、相手を読みやすいスープ紹介カードを書くことができた(資料6)。A児は振り返りシートに、「ALTに伝わりやすいように、スペースに気を付けて書きました。ALTが読んで、食べたいと思ってくれたらうれしいな。」と書いていた。この姿から、相手に伝えるという目的があることで、読みやすい文を書こうという意識が高まったと言える。

以上のことから、ALTが、読みやすい文を書きたいという思いを高めた上で、語句カードを並べてつくった文を書き写す活動を設定することは、相手を読みやすい文を書く上で有効であったと考える。

(オ) 終末 (第8時+課外)

第8時・課外は、書くことの有用感を実感することをねらいとした。そのために、第8時では、一人一人がALTにスープ紹介カードを渡し、内容に関するメッセージを聞く活動を設定した。第8時のA児の振り返りシートには、書いて伝わったことを実感でき、さらに書いてみたいという思いが高まったことが分かる記述をしていた(資料7)。数日後、ALTが、持ち帰ったスープ紹介カードを見てスープを作ったことを、写真を見せながら話した。A児は、実証授業後のアンケートの中で、「ALTが友達と楽しそうに、スープ紹介カードを読んでくれてうれしい気持ちになりました。」と、書くことの良さをさらに実感できたことが分かる記述をしていた。このように、相手から書いたものに対する反応をもらい、さらに見返して活用したことを知ったことで、書いて良かったという気持ちが高まったことが分かった。



資料7 第8時の振り返りの記述 (A児)

以上のことから、書いて伝えた相手からのメッセージをもらうことは、児童が書くことの有用感を

実感する上で有効であったと考える。

#### (4) 全体考察

本研究で目指す3つの姿を身に付けることができているか、以下に考察する。

「相手に応じた内容を書く姿」については、スープ紹介カードに書かれている内容と情報シートの記述について分析したところ、26人全員がALTの要望や好みに応じたスープ紹介を書くことができていた。

また、17人がスープの良さをより詳しく書くことができていた。この結果から、26人中17人がA評価、9人がB評価となった(資料8)。実証授業後に行ったアンケートでは、「決めていた具材がALTの苦手なものか確認したり、文をつくり終えた時に見直したりするのに情報シートが役立った。」「やり取りをして、ALTに伝えたいことの言い方が分かる。」などの記述が見られた。これは、情報シートを活用しながらやり取りを繰り返したことが、相手に応じた内容を書く上で有効であったからだと考える。

「相手が読みやすいように書く姿」については、実証授業後に行ったアンケートでは、26人全員が、ALTが読みやすいように意識して書いたと答えていた。また、スープ紹介カードの表記を分析したところ、26人中25人が、文字と文字、語句と語句の間に適切なスペースをおいて書くことができていた。実証授業後に行ったアンケートでは、日本語と英語の語順に関する気づきを記述している児童は、20人であった(資料9)。この結果から、26人中20人がA評価、5人がB評価、1人がC評価となり(資料10)、概ね目指す姿を実現することができたことが分かった。これは、語句カードを並べて文をつくる活動が、語句のまとまりや語順を意識し、相手が読みやすい文を書くことにつながったからであると考えられる。

「書くことの有用感を実感する姿」については、「英語で書いて良かったという気持ちになったことがある。」と答えた児童は、事前の調査では26人中14人であったのに対して、事後では25人に増えていた。さらに「外国の同じくらいの年の子とメールでやり取りをしたい。」「お父さんの外国人のいとこに、日本の文化を書いて教えてみたい。」など、英語で書くことを活用する場面を具体的に考えることができていた。この結果から、26人中10人がA評価、15人がB評価、1人がC評価となった(資料11)。これは、児童が3つの視点をもって書いて伝え、実際に伝わったと感じたことによって、書くことの有用感を実感することができたからであると考えられる。

#### (5) 研究の成果と今後の課題

##### ア 研究の成果

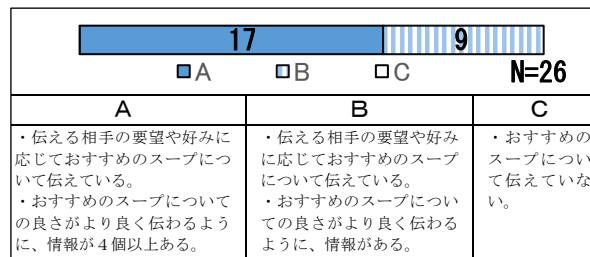
- 情報シートを使いながら、十分なやり取りと書く活動の間に文をつくる活動を位置付けることは、音声と文字をつなぎ、相手に伝わる文を書く上で有効であることを究明できた。

##### イ 今後の課題

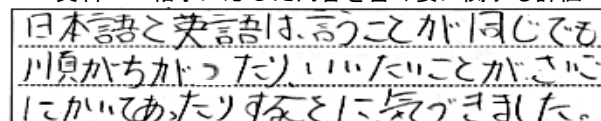
- 書く必然性をより高めるために、その場にいない人に書いて伝えたり、ずっと残るものを書いて伝えたりするなど、書いて伝える目的や場面、状況の設定を更に工夫していく。

#### <引用文献>

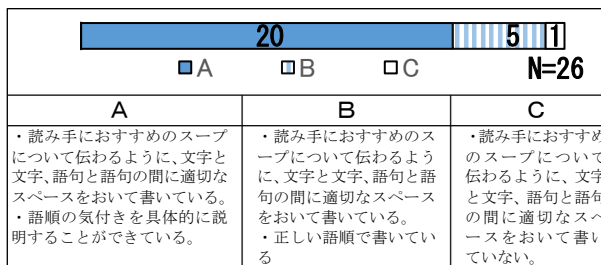
- 1) 中森 誉之(2018) 『技能を統合した英語学習のすすめ』 p.114 ひつじ書房



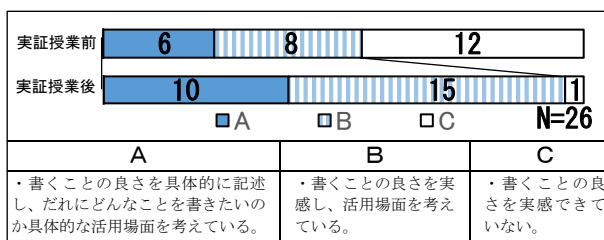
資料8 相手に応じた内容を書く姿に関する評価



資料9 語順に関する気づき (G児)



資料10 相手が読みやすいように書く姿に関する評価



資料11 書くことの有用感を実感する姿に関する評価

【添付資料】

○ 単元導入と終末の伝える相手からのメッセージ

単元導入

単元ゴールの言語活動の目的や場面、状況を把握するALTからのメッセージ

Hello everyone.  
 What season do you like?  
 I like winter.  
 But I don't like the cold.  
 I like soup.  
 So please tell me about your recommended soup!!  
 I want to eat soup from various countries.  
 I want to eat your soup at home.

終末

書くことの有用感を実感するALTからのメッセージ

I made borsch after looking at the soup book.  
 It was delicious.  
 My friend and I enjoyed making it.  
 I will try to make more of your recommended soup soon.  
 Thank you so much for the soup book.

○ 情報シートの活用方法

A児の情報シート

冬が好き  
 寒いのが苦手  
 私はスープが好きです  
 おすすめのスープを教えてください  
 色々な国のスープを、食べたい  
 君のスープを家で食べたい。

★イメージマップ

第6時: 栄養バランス, 健康に良  
 第4時: ウィナー, ポテト, 玉ねぎ  
 第3時: ポトフ, 具材  
 第5時: おいしい  
 第3時: フランス, OK!!

A児がタブレット上につくった文

第3時 This is potofu  
 第6時 I like potofu  
 第4時 sausage onions and potatoes are in this soup  
 第3時 Potofu is from France  
 第5時 It's hot and delicious  
 第6時 It's healthy

A児のスープ紹介カード

This is potofu.  
 Potofu is from France.  
 Sausage, onions and potatoes are in this soup.  
 I like potofu very much.  
 It's hot and delicious.  
 It's healthy.

情報シートに書いた伝えたいこと

タブレットにつくった文

- 第3時 ポトフ フランス → This is potofu. Potofu is from France.  
 第4時 ウィナー 玉ねぎ じゃがいも → Sausage, onions and potatoes are in this soup.  
 第5時 おいしい → It's hot and delicious.  
 第6時 健康に良い 栄養バランス → It's healthy. I like potofu.

○ 語句カードを並べ替えて文をつくる手順

① 必要に応じて音声を確認する。

② 選択肢の中から、必要な語句カードを選ぶ。

③ 選んだ語句カードを並べて文をつくる。

○ 音声や意味と文字をつなぎ、語句カードを並べるための工夫

音声  
音声と文字をつなぐ

イラスト  
意味のヒントになる  
※イラストの有無は個人に選択させる

色  
語順を考えるヒントになる